

---

## 8 品目別調査結果 牛肉

---

1. 概況
2. 調査実施概要
3. 各取引段階の“量”の変化
4. 各取引段階の“価格”の変化
5. 福島県産品に対する認識

# 1. 概況

## 調査結果概要 (1/3)

### 1. 各取引段階の“量”の変化

#### 生産段階

- 福島県における肉用牛の飼養頭数は、震災後も継続して減少傾向であったが、近年は微増ないし横ばい傾向である。

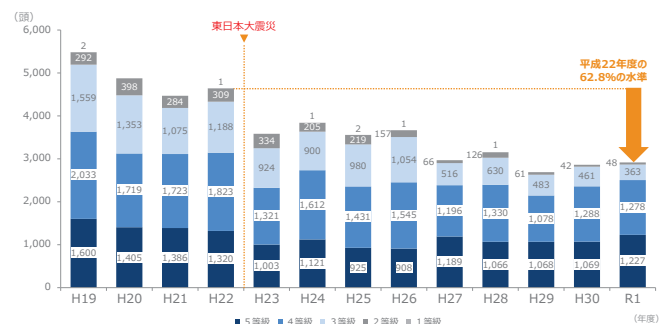
#### 出荷段階

- 東京都中央卸売市場への福島県産和牛（去勢）の出荷頭数は、震災後減少傾向で推移している。
  - 出荷頭数は、平成22年度と比較して令和元年度は62.8%水準となった。
  - 出荷頭数に占める5等級の割合は前年度と比較して増加。

全国・福島県産肉用牛の飼養頭数の推移（平成19年を100%とした値）



東京都中央卸売市場に対する出荷頭数の推移（福島県産和牛・去勢）



※「牛肉」とは、「和牛」「交雑種」「ホルスタイン種」を合わせた総称のこと。以下、牛肉全体をさす場合には「牛肉」、うち和牛について特別に言及する場合には「和牛」という用語を用いる。

## 2. 各取引段階の“価格”の変化

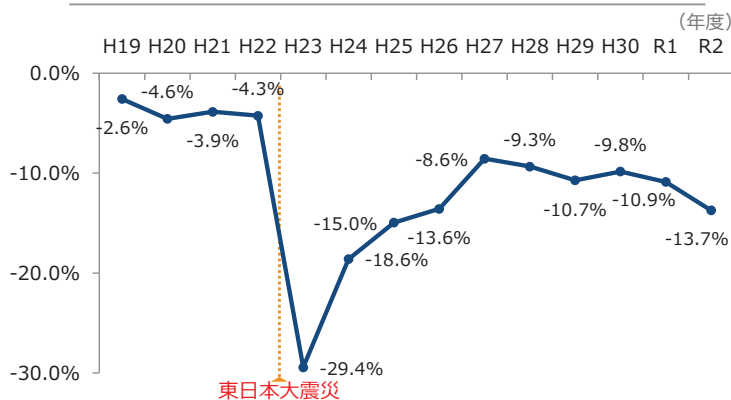
### 市場における状況

- 東京都中央卸売市場における福島県産和牛の枝肉価格は、震災直後に全国平均との差が拡大した。
- その後、全国平均との価格差が縮まる動きが見られたものの、近年、価格差は定着しており震災前の水準には回復していない。

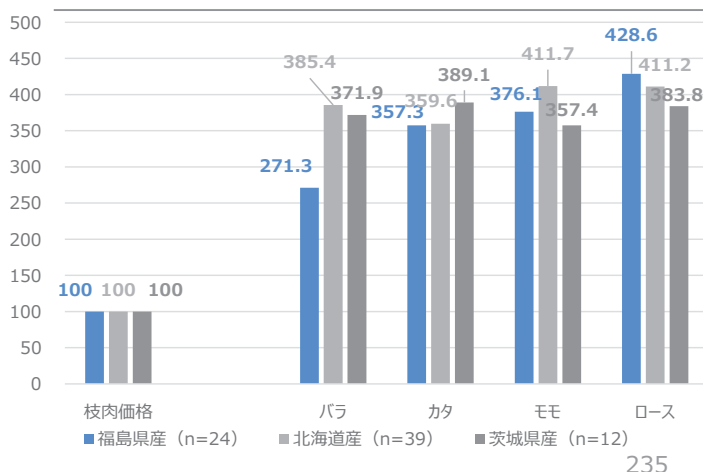
### 価格事例調査における状況

- 福島県産和牛、北海道産和牛と茨城県産和牛について、産地間で一貫した傾向はみられなかった。  
※枝肉単価については、福島県産和牛よりも北海道産和牛や茨城県産和牛の方が高い傾向にある。
- 小売企業ごとの仕入・販売事例では、同一部位かつ同一等級では同一の小売価格としている事例が多かった。

全国平均との価格差推移 (和牛全体)



和牛の枝肉価格と小売価格の比較 (部位ごとの産地間比較)

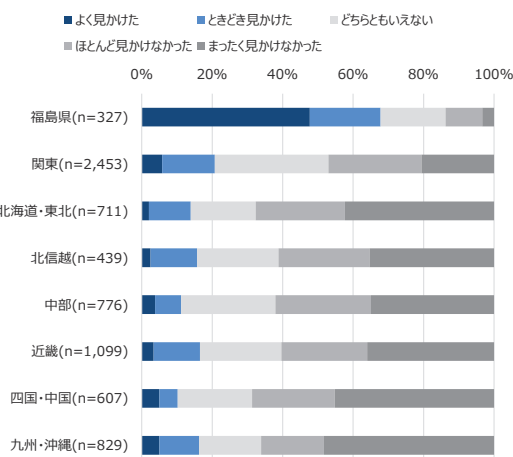


## 3. 福島県産品に対する認識

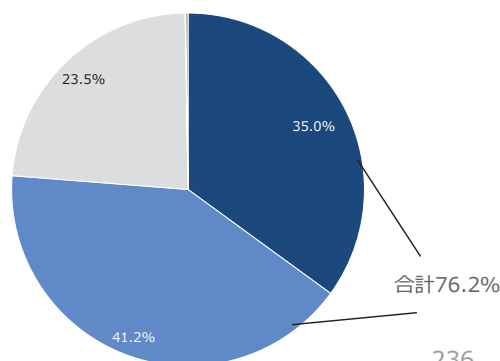
### 消費者への調査

- 福島県産牛肉をよく見かけた人の割合は、福島県が高く、他の地域では10%に満たなかった。  
➢ 福島県産牛肉を買ったことがあると認識している人の割合も福島県が最も高く、全国では6.5%であった。
- 福島県産牛肉の購買者に評価を尋ねたところ、「非常に良い」または「良い」と回答した人が76.2%であった。

福島県産牛肉を店頭で見たか



福島県産牛肉購買者の評価 (n=653)



## 2. 調査実施概要

237

調査の全体像

概要調査として政府統計等を整理し、全体像を把握した。また、消費者へのアンケート調査により、消費者の福島県産品の購買実態や評価を把握した。さらに、取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る調査を実施し、推移の実態を分析した。

	概要調査	アンケート調査	価格事例調査
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>統計情報を整理し、生産・流通の実態を把握。</li> <li>市場での動向については、競合県産品との比較分析を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者の福島県産品の購買実態や評価を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問面接により取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る調査を実施し、推移の実態を分析する。</li> <li>他県産の同品目についても調査の上、比較分析を行う。</li> </ul>
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政機関の政府統計。</li> <li>卸売市場データ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国の消費者。 (11,000人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒毛和種。 (A3、A4、A5等級のいずれか)</li> <li>福島県内食肉流通センター又は県外食肉卸売市場等を経由する流通経路。</li> </ul>
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>福島県における肉用牛の飼養頭数。</li> <li>卸売市場への出荷頭数。</li> <li>卸売市場における取引価格の競合県産品との比較。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福島県産牛肉の視認経験。</li> <li>福島県産牛肉の購買経験。</li> <li>牛肉購買時の重視点。</li> <li>福島県産牛肉の評価。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>流通ルートを抽出し、取引価格の調査(各取引段階における関係者からの個別データ収集)を行う。</li> </ul>
各節との対応	<p>各取引段階の“量”の変化</p> <p>各取引段階の“価格”の変化</p>	<p>福島県産品に対する認識</p>	<p>各取引段階の“価格”の変化</p>

238

**各データを入手・分析し、最新の傾向を比較した。アンケート調査や追跡調査については、独自に情報を収集した。**

---

概要調査  
使用データ

- 農林水産省「畜産統計」。
- 東京都中央卸売市場「市場統計情報」。

アンケート  
調査

- 全国の消費者にWebアンケート調査を実施。
  - 11,000件を回収・分析を実施した

追跡  
調査

- 各事業者から入手した仕入データや販売データ※ 等。

※個社が特定できないようにするとともに、実額を非公表とすることを前提に一部事業者から受領 239

---

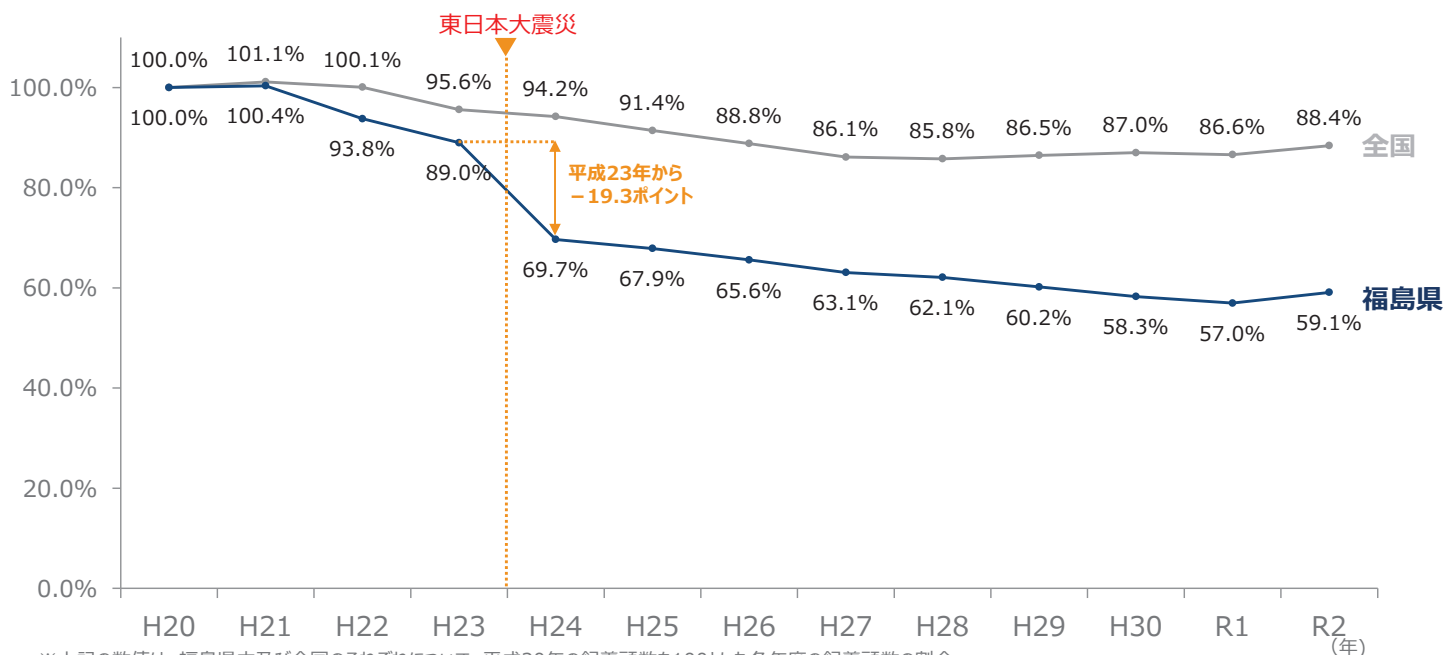
## 3. 各取引段階の“量”の変化

---

## 福島県産肉用牛の飼養頭数の推移

福島県産肉用牛の飼養頭数は、平成23年から平成24年にかけて減少した。その後も減少傾向にあり、令和2年は平成20年の59.1%となっている。一方、全国においても平成22年以降減少傾向であったが、近年は微増ないし横ばい傾向。

全国・福島県産肉用牛の飼養頭数の推移（平成20年を100%とした値）

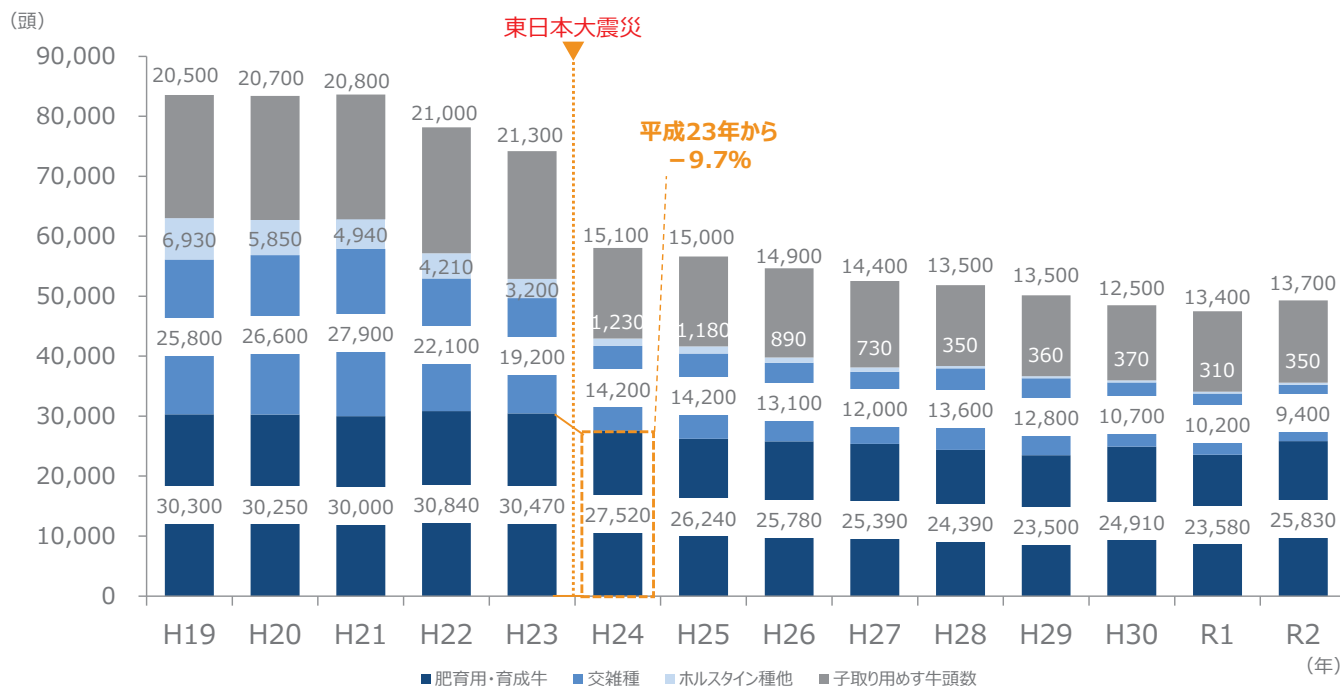


※上記の数値は、福島県内及び全国のそれぞれについて、平成20年の飼養頭数を100とした各年度の飼養頭数の割合。  
 ※飼養頭数は、毎年2月1日現在の値である（例：令和2年は、令和2年2月1日時点の飼養頭数。）。  
 データ出所：農林水産省「畜産統計」

## 福島県における肉用牛の飼養頭数の推移

福島県産肉用牛の飼養頭数のうち、肥育用・育成牛は平成23年から平成24年にかけて減少。その後も肥育用・育成牛は横ばいないし微減傾向で推移しているが、令和2年で増加している。

福島県産肉用牛の飼養頭数の推移（畜種・飼養目的別）

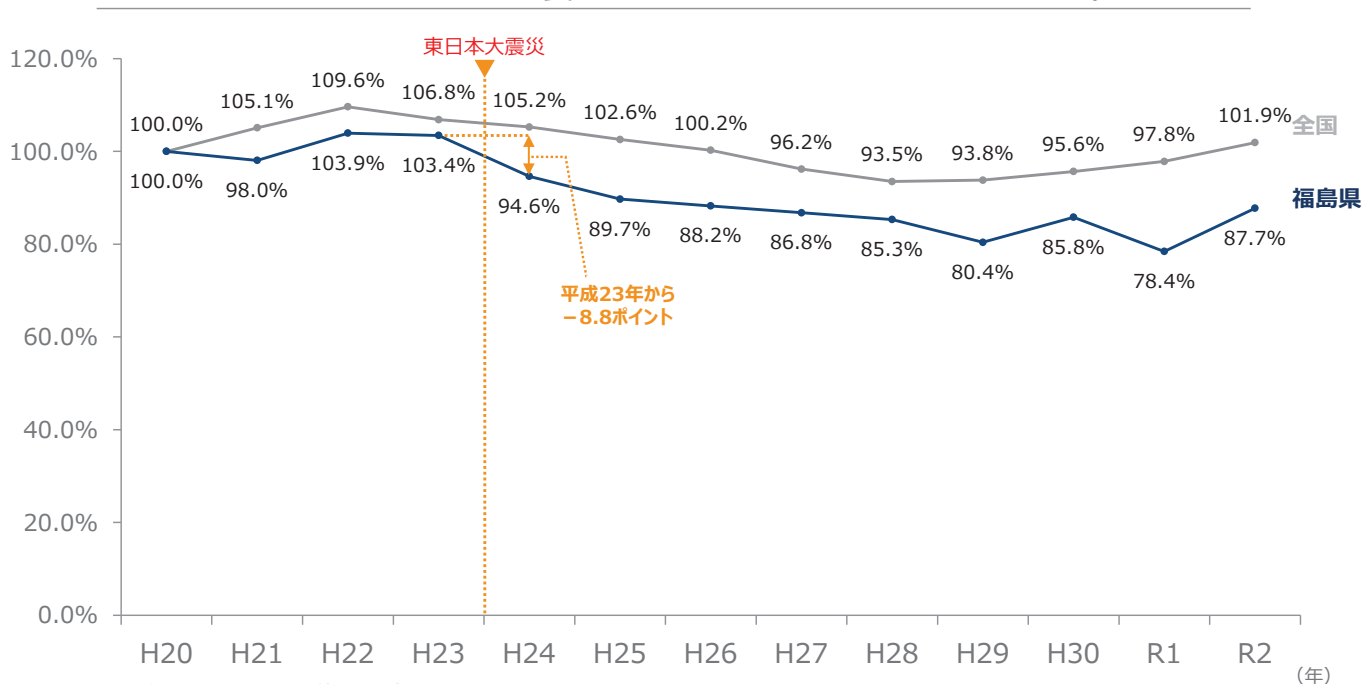


※飼養頭数は、毎年2月1日現在の値である（例：令和2年は、令和2年2月1日時点の飼養頭数。）。  
 データ出所：農林水産省「畜産統計」

## 和牛の飼養頭数の推移

和牛の飼養頭数は、全国平均では平成22年をピークに減少傾向となったが平成29年以降は微増傾向。一方、福島県では平成23年から平成24年にかけて減少した後も減少傾向で推移していたが、令和2年で再び増加した。

全国・福島県産和牛の飼養頭数の推移（平成20年を100%とした値）



※飼養頭数は、毎年2月1日現在の値である（例：令和2年は、令和2年2月1日時点の飼養頭数。）。  
 ※ここでの和牛とは、肉用種の肥育用牛と育成牛の合計値を指す。

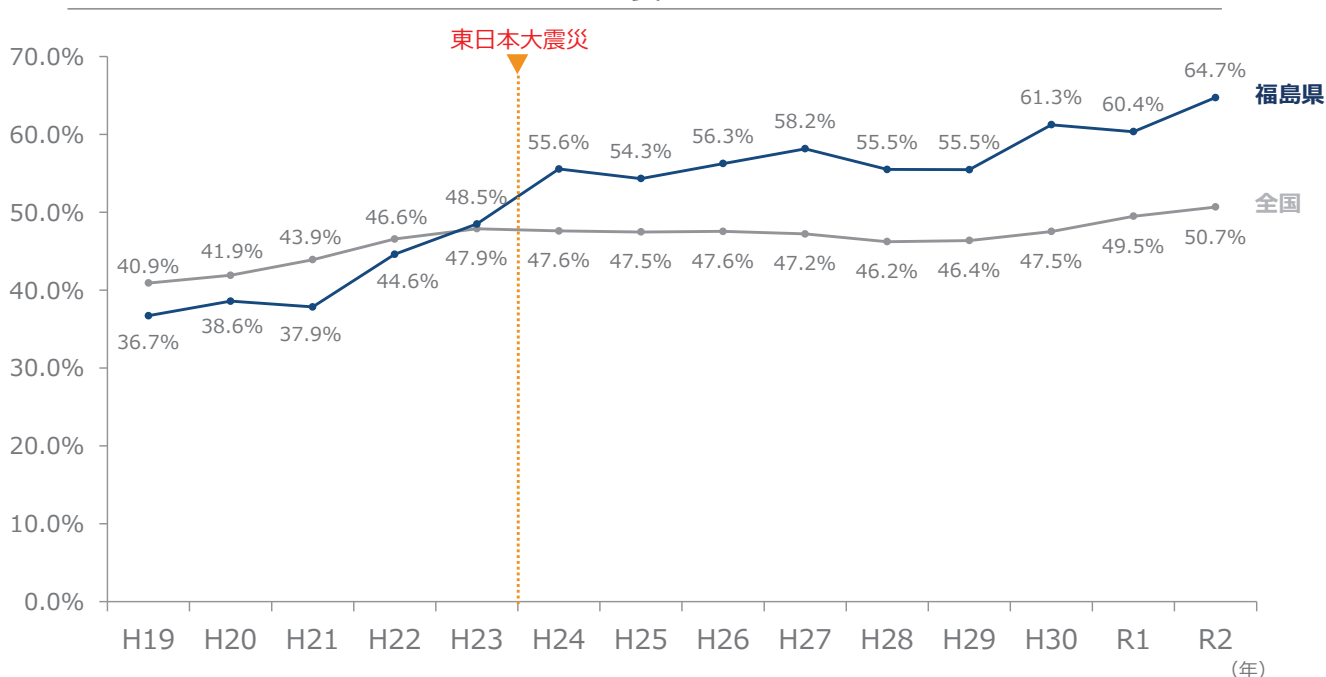
データ出所：農林水産省「畜産統計」

243

## 肉用牛の総飼養頭数に対する和牛の割合

肉用牛の総飼養頭数に占める和牛の割合は、震災後全国平均で横ばいしないし微増傾向で推移する中、福島県では平成21年から平成24年にかけて17.7ポイント上昇し、令和2年も64.7%と全国平均の50.7%を上回る状況。

全国・福島県産肉用牛の総飼養頭数に対する和牛割合の推移



※飼養頭数は、毎年2月1日現在の値である（例：令和2年は、令和2年2月1日時点の飼養頭数。）。  
 ※和牛の割合は、「肉用種の肥育用牛の飼養頭数」/（「肉用種の肥育用牛の飼養頭数」+「乳用種（ホルスタイン種他+交雑種）の飼養頭数」）のことを指す。

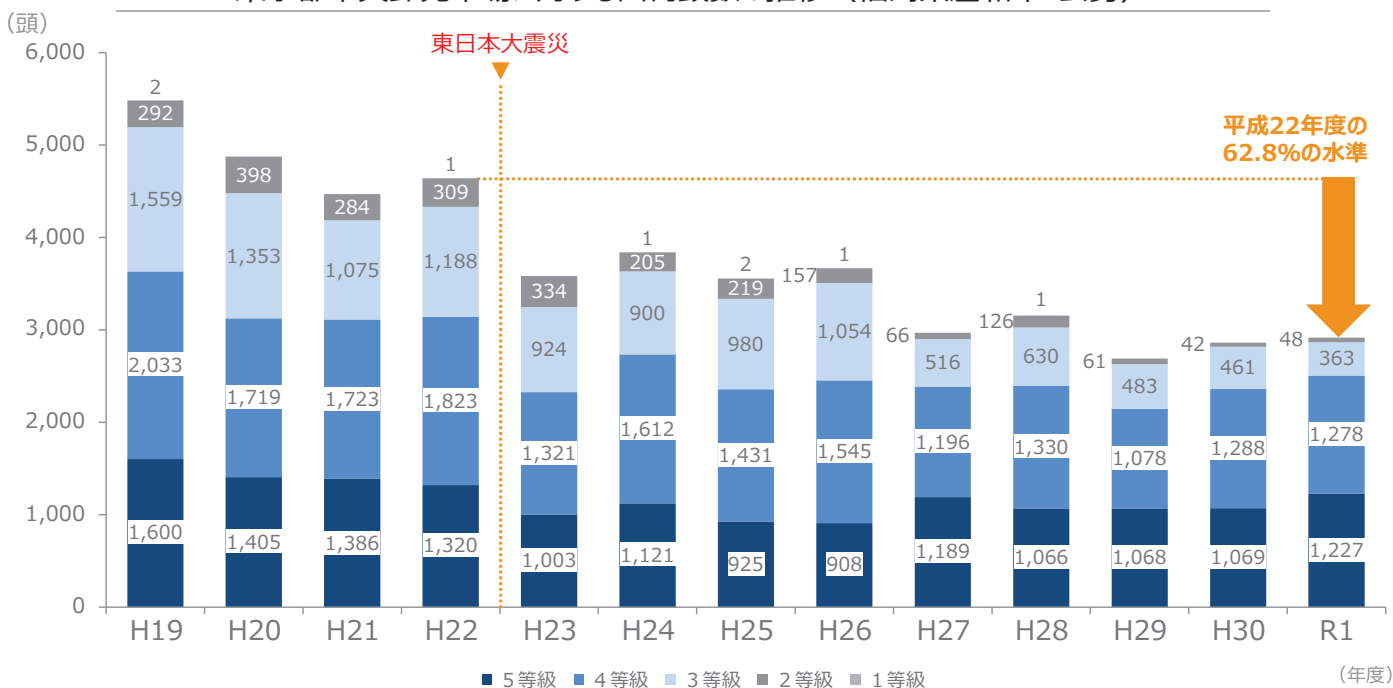
データ出所：農林水産省「畜産統計」

244

東京都中央卸売市場に対する出荷頭数の推移（福島県産和牛・去勢）

東京都中央卸売市場への福島県産和牛（去勢）の出荷頭数は、震災後減少傾向で推移しており、令和元年度は平成22年度と比較して62.8%の水準となった。出荷頭数に占める5等級の割合は、令和元年度に前年度と比較して増加している。

東京都中央卸売市場に対する出荷頭数の推移（福島県産和牛・去勢）

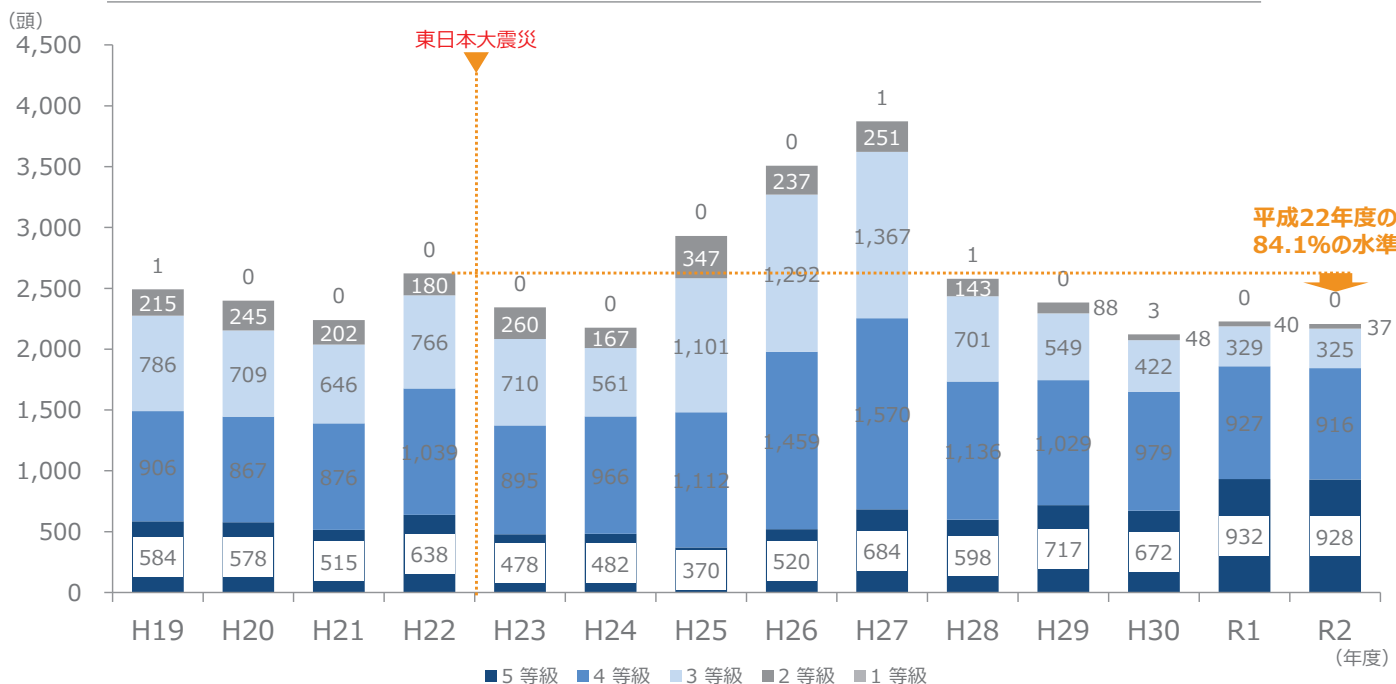


データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

東京都中央卸売市場に対する出荷頭数の推移（福島県産和牛・牝）

東京都中央卸売市場への福島県産和牛（牝）の出荷頭数は、平成22年度から平成24年度まで減少したが、その後増加傾向となり平成27年度にピークを迎えた。しかし、直近は減少傾向にあり、令和2年度は平成22年度の84.1%の水準となっている。

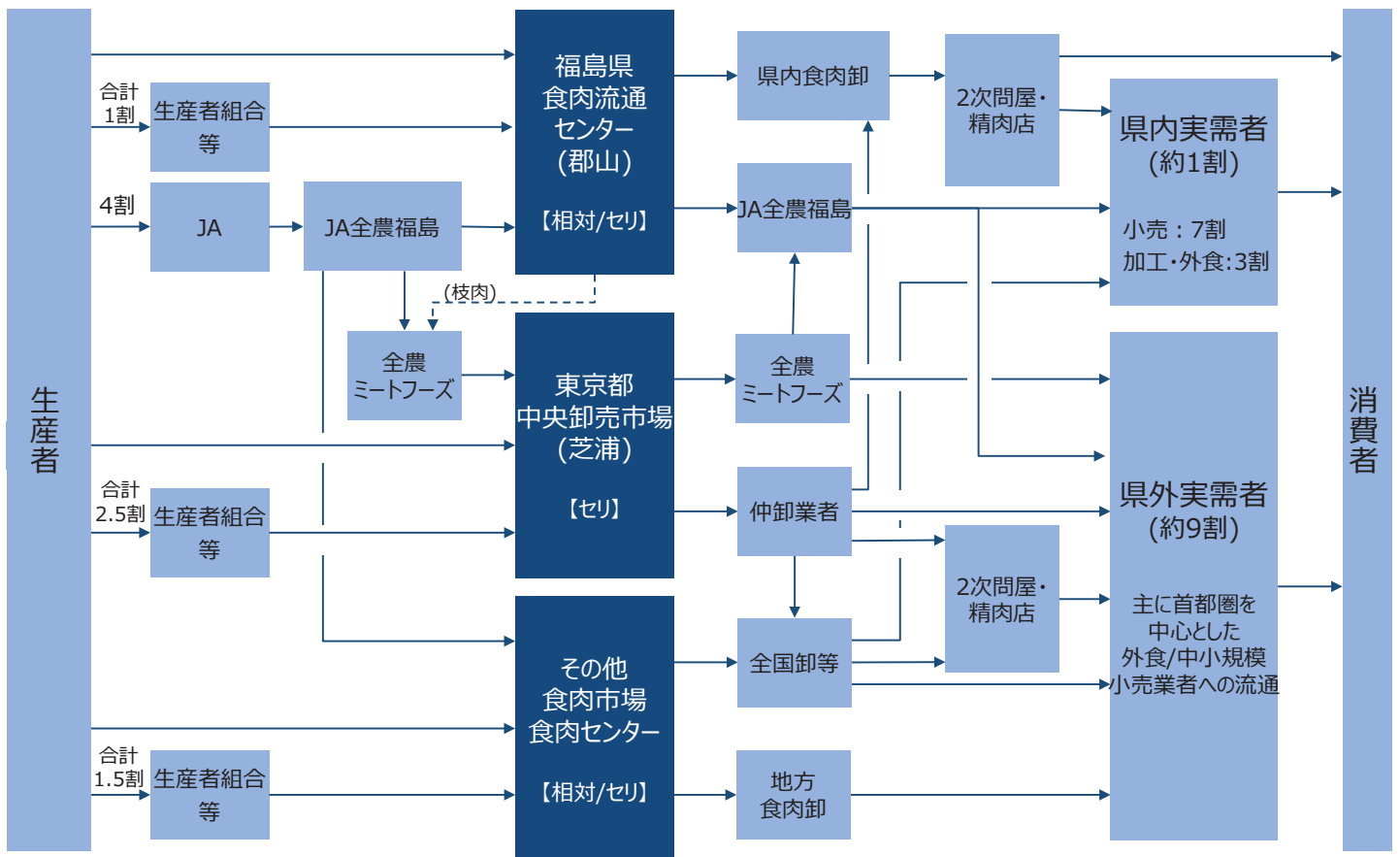
東京都中央卸売市場への出荷頭数等級別推移（福島県産和牛・牝）



データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」 ※令和2年度は、令和2年12月までの実績を使用。



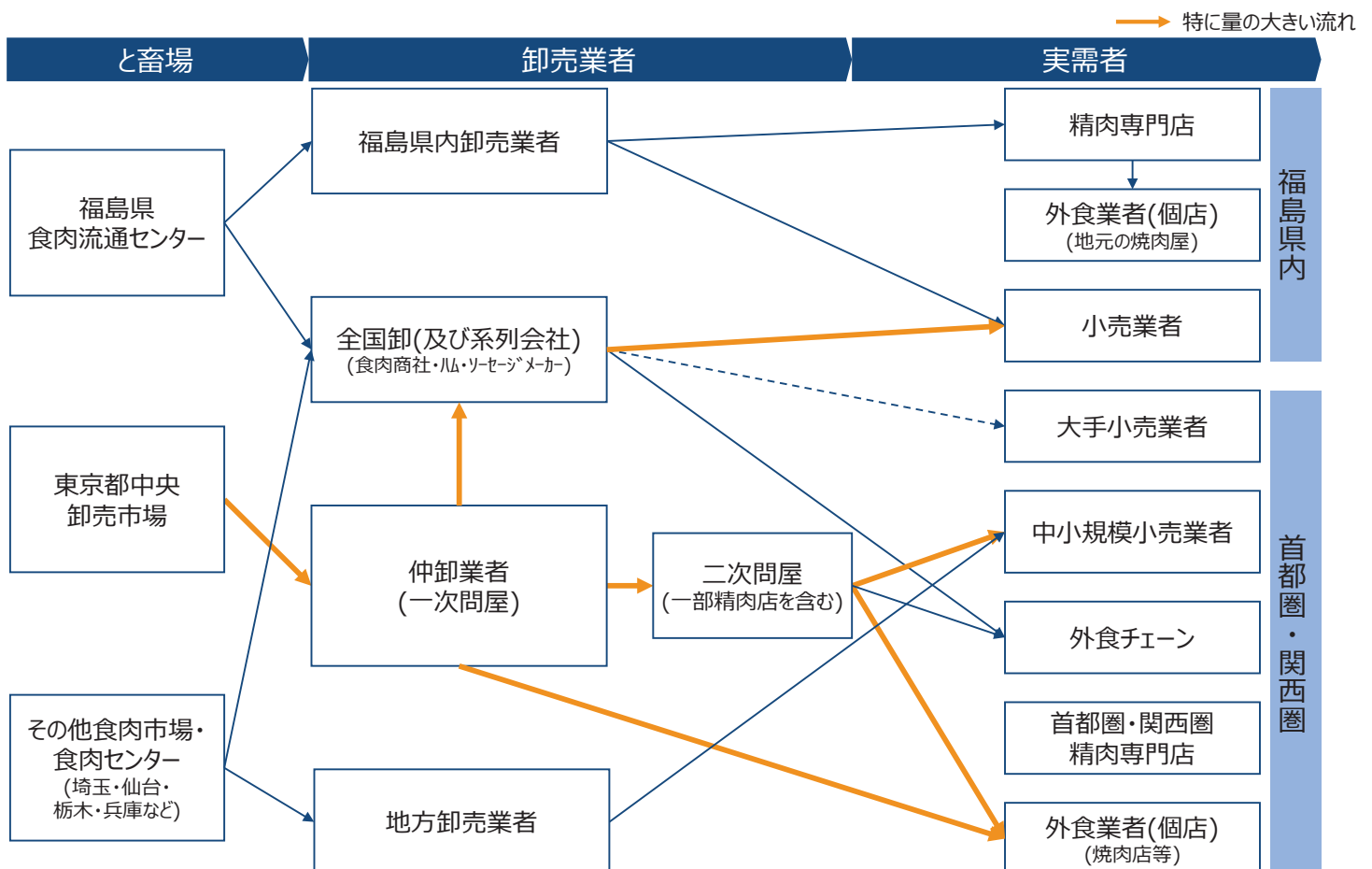
《参考》福島県産牛肉（和牛）の流通経路



データ出所：福島県畜産課「福島の畜産2015」及びヒアリング結果

※H29年度調査において作成。247

《参考》福島県産牛肉の主要流通経路



出所：ヒアリング結果

※H29年度調査において作成。248

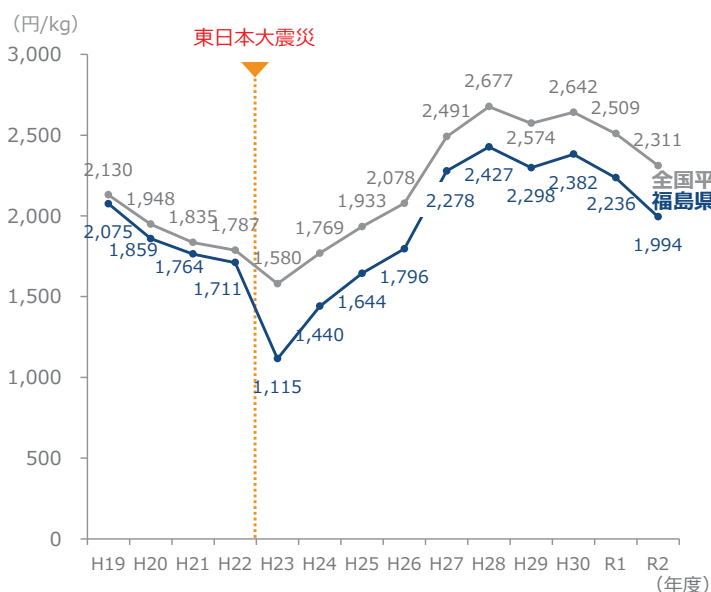
## 4. 各取引段階の“価格”の変化

249

福島県産和牛の価格回復概況（全国平均との価格差）

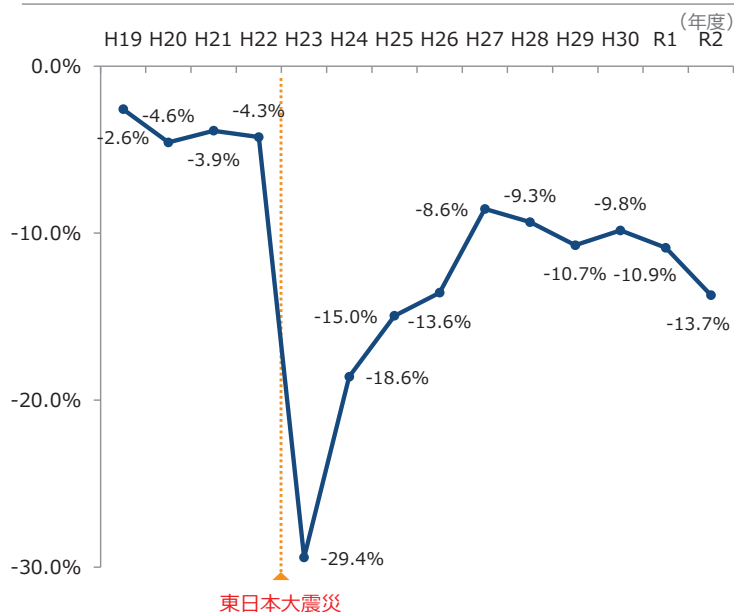
福島県産和牛の枝肉価格は、震災直後に全国平均との差が拡大した。その後、全国平均との価格差が縮まる動きが見られたものの、近年、価格差は定着しており震災前の水準には回復しておらず、令和2年度は全国平均の-13.7%となった。

卸売市場平均価格推移（和牛全体）



※令和2年度は、令和2年12月までの実績を使用。

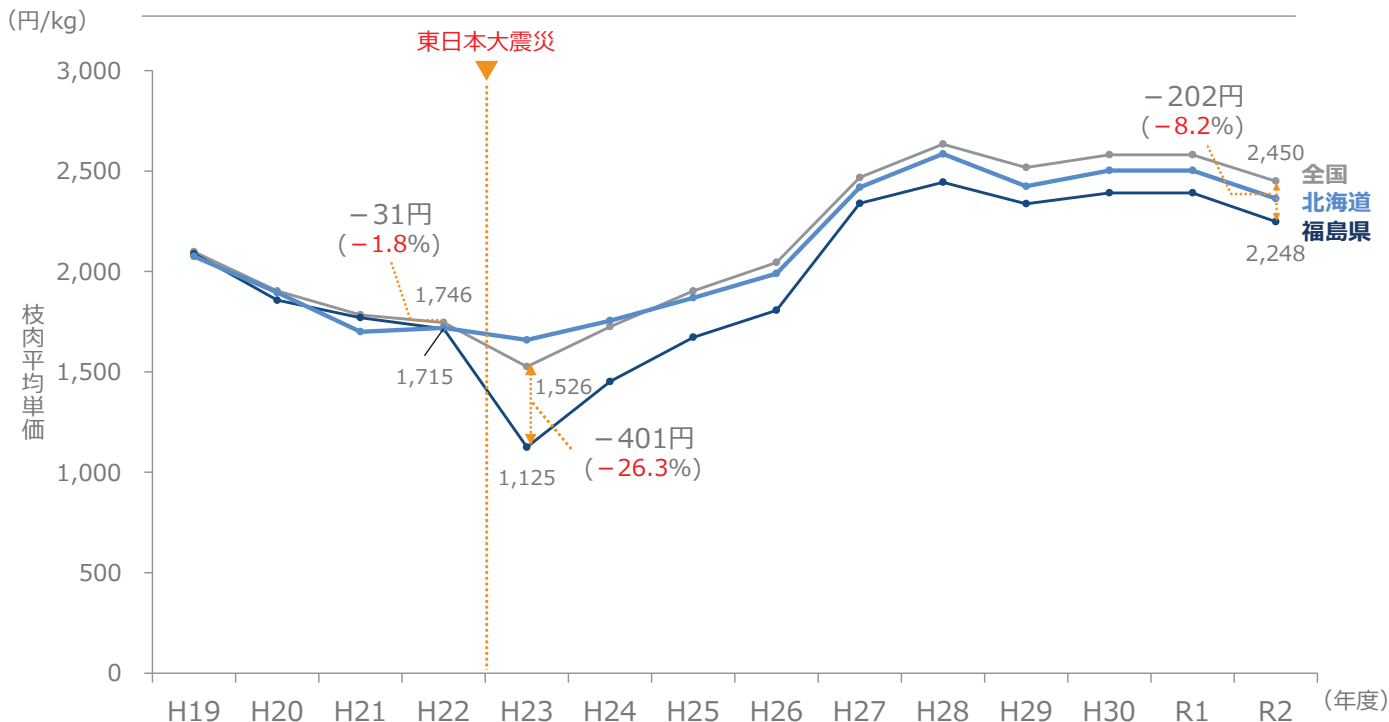
全国平均との価格差推移（和牛全体）



※福島県及び全国平均とともに、枝肉価格は去勢と牝の平均単価を用いた。

**福島県産和牛（去勢）の枝肉平均単価は、震災前は全国平均とほぼ同額で推移していたが、平成23年度に-26.3%まで価格差が拡大した。その後価格差は縮小傾向だが、令和2年度は全国平均より8.2%安値となっている。**

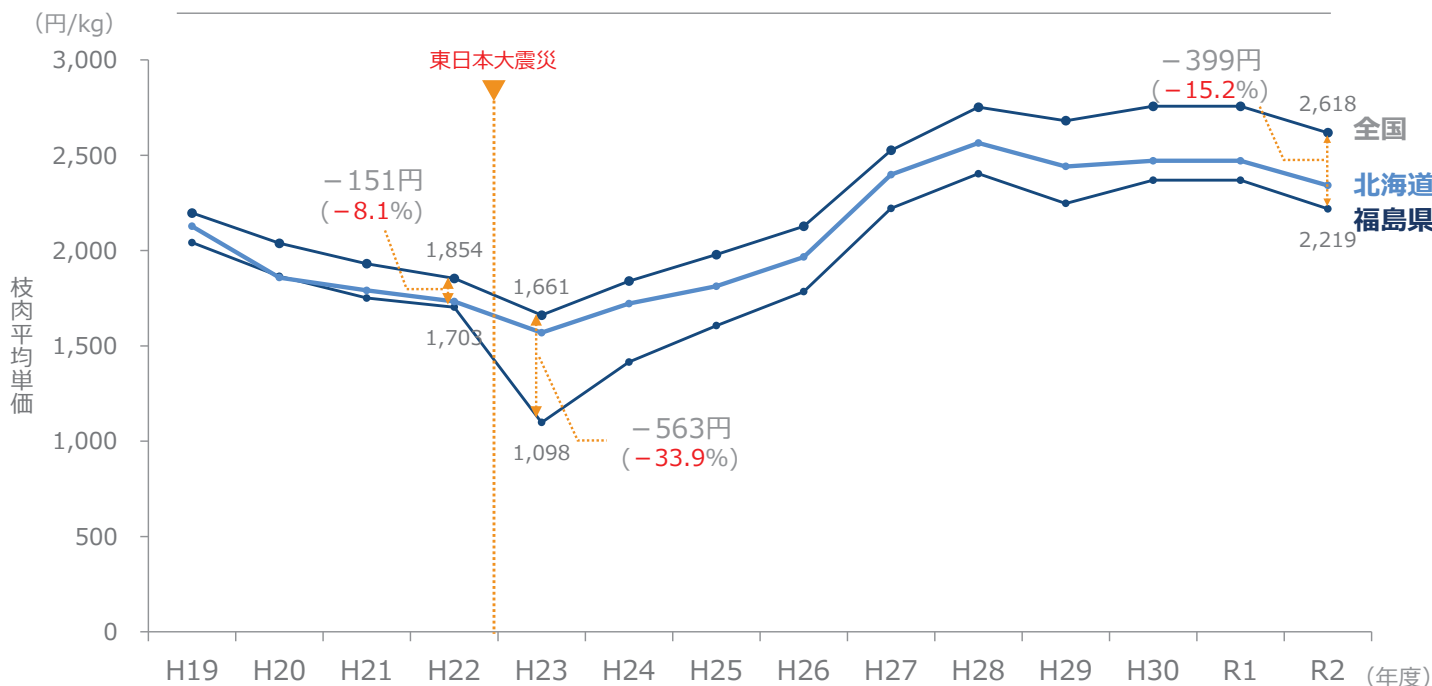
東京都中央卸売市場における枝肉平均単価の推移（和牛・去勢）



データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」 ※令和2年度は、令和2年12月までの実績を使用。

**福島県産和牛（牝）の枝肉平均単価は、震災前は全国平均を8.1%下回っていたが、平成23年度に-33.9%と価格差が拡大した。その後価格差は縮小傾向だが、令和2年度は全国平均より約15.2%安値となっている。**

東京都中央卸売市場における枝肉平均単価の推移（和牛・牝）



データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」 ※令和2年度は、令和2年12月までの実績を使用。

**福島県産牛肉の販売価格に関する事例調査を行い、福島県産牛肉の販売価格に関する分析を実施した。**

概要

概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>枝肉価格や小売販売価格に係る情報を収集し、販売価格の実態を把握する。</li> <li>他県産の同品目についても調査の上、比較分析を行う。</li> </ul>
対象商品	<ul style="list-style-type: none"> <li>福島県産和牛（A3、A4、A5等級のいずれか）</li> <li>競合道県産和牛（A3、A4、A5等級のいずれか）</li> </ul> <p>※食肉関係者へのヒアリングにより、A3、A4、A5等級となる牛肉は概ね黒毛和種であるとのことであり、本調査では交雑種やホルスタイン種を調査対象から除外し、黒毛和種の販売事例を調査した。</p> <p>※競合道県は、小売店舗において和牛が併売されている事例が限定されていることから、各チェーンにおいて、福島県産和牛と同一ランクで取り扱われている道県とし、事例ごとに設定した。</p>
対象期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>期間：令和2年8月～12月</li> </ul>
調査ルート	<ul style="list-style-type: none"> <li>福島県内の食肉市場を経由する福島県産和牛。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>競合道県産和牛については、生産道県の市場を経由する和牛を調査。</li> </ul> </li> <li>福島県外の市場を経由する福島県産和牛。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>競合道県産和牛については、生産道県外の市場を経由する和牛を調査。</li> </ul> </li> </ul>

**福島県産和牛や競合道県産和牛の小売店頭での取扱実態を調査するため、福島県内外で福島県産和牛の取扱いがある13店舗に対する小売店頭価格調査と、小売企業から仕入や販売価格データを提供いただき分析する仕入・販売事例調査を実施した。**

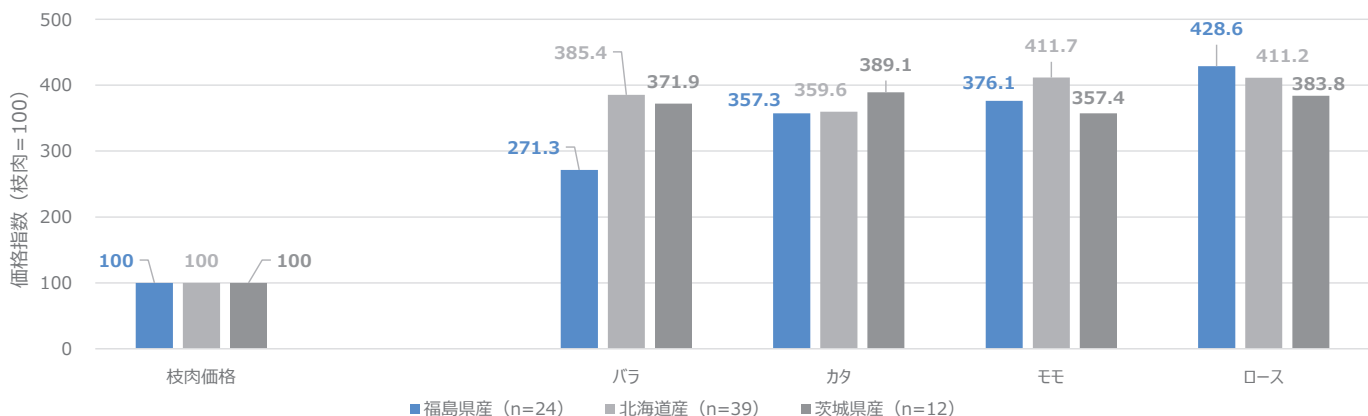
小売店頭価格調査

仕入・販売事例調査

調査対象企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>福島県内の店舗：7店舗</li> <li>首都圏内の店舗：6店舗</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福島県内の企業：3社</li> <li>首都圏の企業：2社</li> </ul>
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>産地</li> <li>商品名（販売部位）</li> <li>小売単価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産地（福島県産和牛と同等のランクで取扱がある他道県産和牛を含む）</li> <li>仕入単価（仕入形態の情報を含む）</li> <li>販売価格（部位別の標準販売単価）</li> </ul>
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年8月、10月、12月                         <ul style="list-style-type: none"> <li>8月、10月、12月の各月に1回ずつ合計3回、小売店頭価格等の情報を収集した。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年8月、10月、12月                         <ul style="list-style-type: none"> <li>8月、10月、12月の各月の仕入・販売データを提供いただいた。</li> </ul> </li> </ul>

- 生産者→県内食肉流通センター（JA系統を含む。）→県内外仲卸売業者等→小売業者等のルート。
    - 北海道産和牛や茨城県産和牛については、生産者→北海道又は茨城県内市場→県内外仲卸売業者等→小売業者等のルート。
  - 枝肉単価を100とすると、福島県産和牛は271.3～428.6、北海道産は359.6～411.7、茨城県産は357.4～389.1と部位ごとに小売販売価格に違いがあった。
    - ただし、福島県産和牛について、北海道産や茨城県産と比較して、価格に一貫した傾向は確認できなかった。
- ※枝肉単価は、福島県産和牛よりも北海道産や茨城県産の方が高い傾向にある。

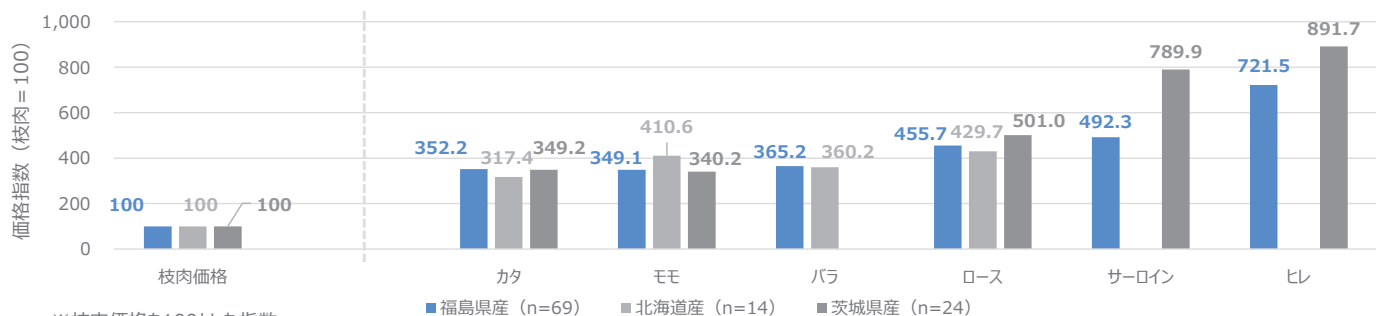
県内市場を経由した和牛の小売価格



※枝肉価格を100とした指数。  
 ※枝肉価格は、東京都中央卸売市場における和牛の生体枝肉のデータを用いた。  
 ※福島県産、北海道産や茨城県それぞれn数は、調査で収集できたアイテム数。

- 生産者→県外食肉卸売市場等→小売業者等のルート。
    - 北海道産和牛や茨城県産和牛については、生産者→北海道又は茨城県外市場等→小売業者等のルート。
  - 枝肉単価を100とすると、福島県産和牛は349.1～721.5、北海道産は317.4～429.7、茨城県産340.2～891.7と部位ごとに小売販売価格に違いがあった。
    - ただし、福島県産和牛について、北海道産や茨城県産と比較して、価格に一貫した傾向は確認できなかった。
    - 茨城県産のサーロインやヒレにおいて、福島県産よりも一貫して高価格となっている理由は、茨城県産の取扱が食肉専門店のみであった一方、福島県産は食肉専門店と食品スーパーにおける販売価格の平均価格であり、店舗属性の違いが影響している。
- ※枝肉単価は、福島県産和牛よりも北海道産や茨城県産の方が高い傾向にある。

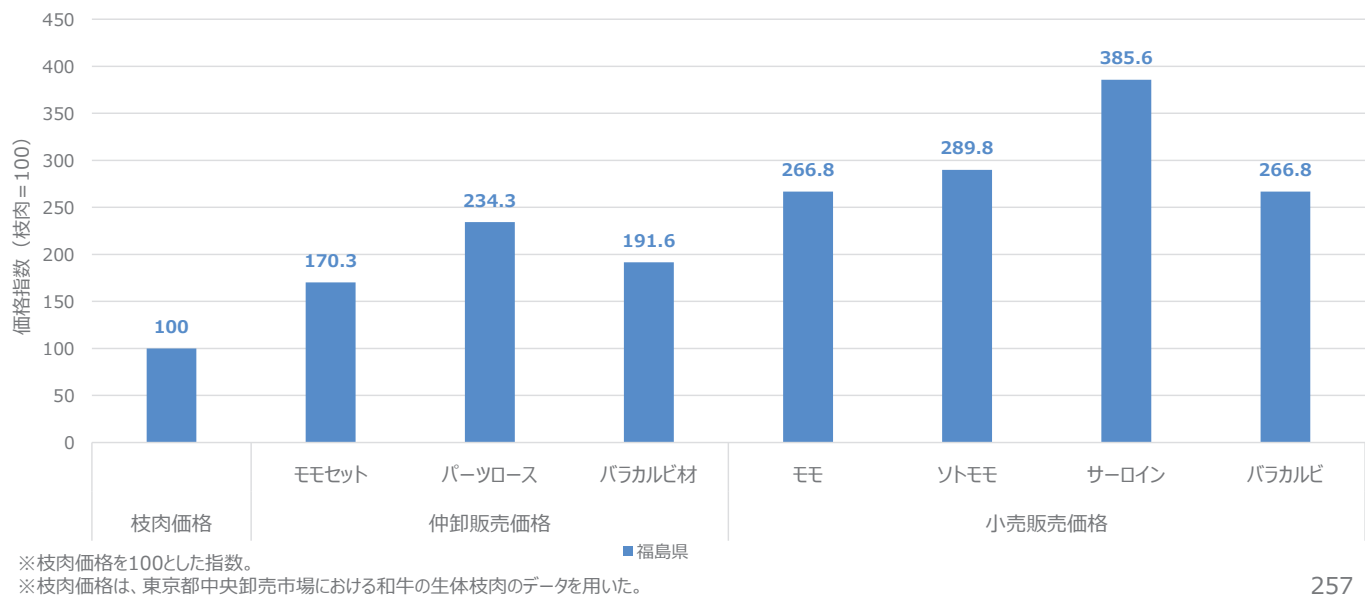
県外市場を経由した和牛の小売価格



※枝肉価格を100とした指数。  
 ※枝肉価格は、東京都中央卸売市場における和牛の生体枝肉のデータを用いた。  
 ※福島県産、北海道産や茨城県それぞれn数は、調査で収集できたアイテム数。

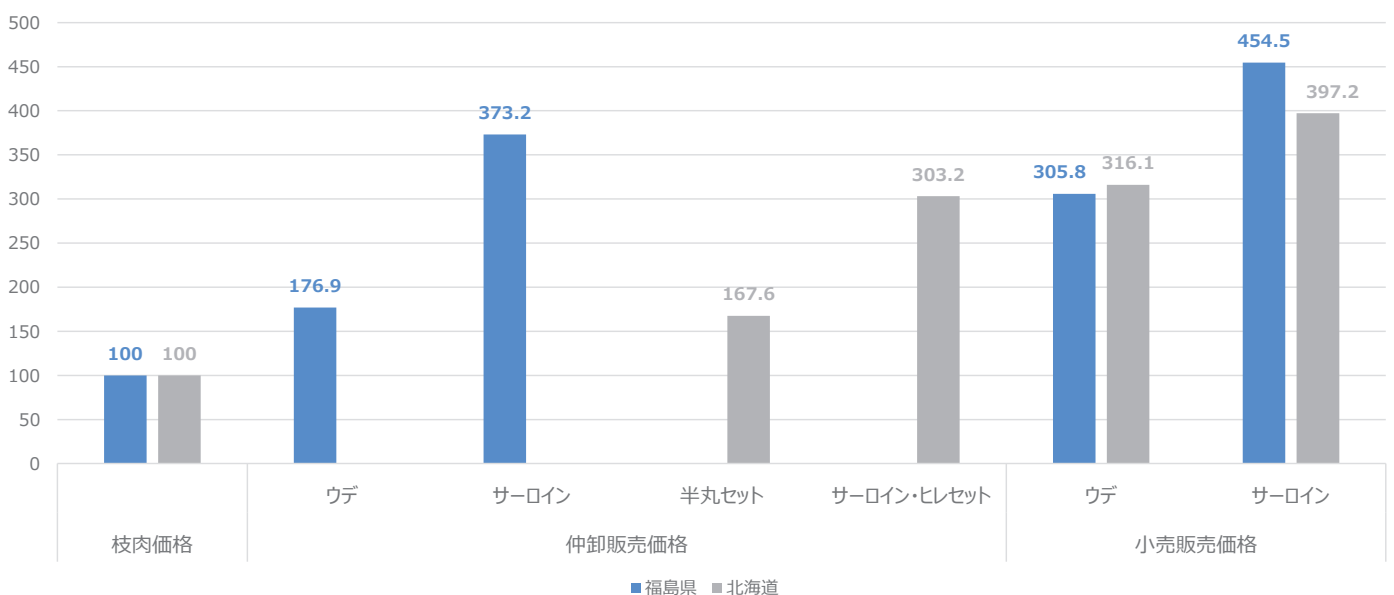
- 同社は福島県を中心に複数県に店舗を有している量販店である。
- 各店舗では、店舗が位置している県産の銘柄和牛を中心に取り扱いしている。
- 仲卸業者に対しては、産地、等級や仕入価格の目安を提示し、条件に合う枝肉を複数市場から仕入れている。
- 標準小売価格は本部が品質ごとの目安を提示し、各店舗がその価格を目安に値付けを行っている。
- 標準小売販売価格は同一部位や同一等級であれば基本的には同一価格が設定されている。

A社における和牛の価格



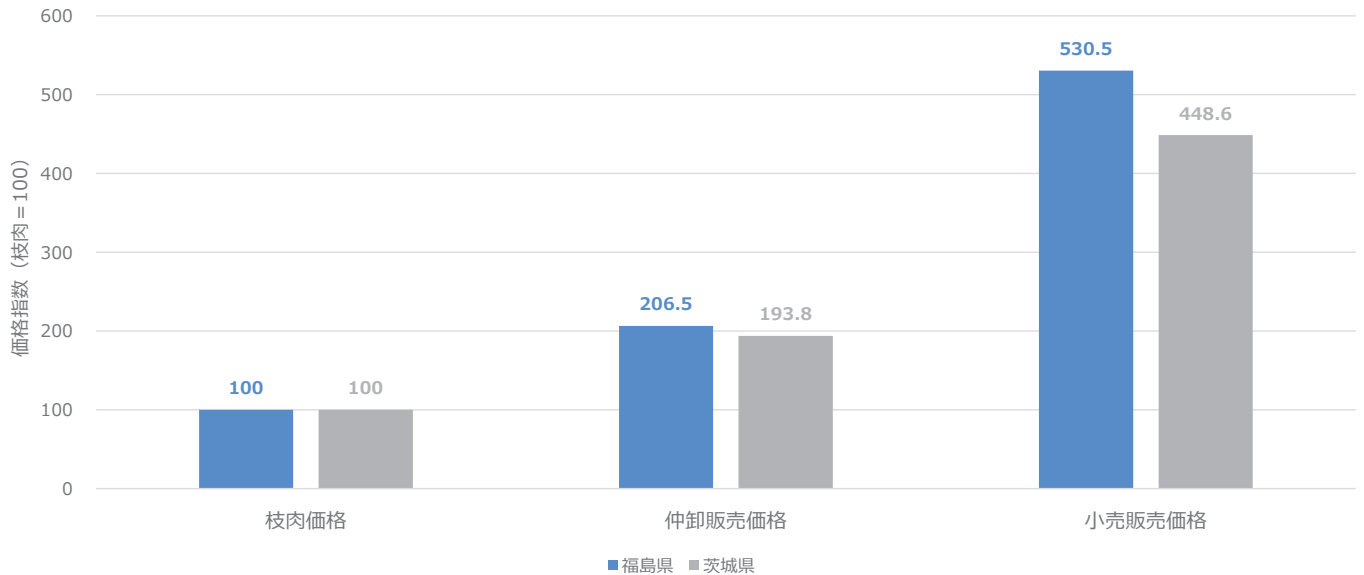
- 同社は全国に店舗を有している量販店である。
- 福島県産和牛は福島県内の店舗のみで取り扱いしている。
- 仲卸業者からはパーツでの仕入れを基本としており、特定の仲卸業者を通じて全国の市場から仕入れている。
- 産地ごとに、同一等級や同一部位であれば、標準小売販売価格は基本的に同一価格で設定されている。

B社における和牛の価格



- 同社は全国に店舗を有している量販店である。
- 福島県産和牛は福島県内及び首都圏の一部店舗で取り扱っている。
- 仲卸業者からはセットでの仕入れを基本としており、特定の仲卸業者を通じて等級を指定して仕入れている。
- 小売販売価格は複数部位を含んだ1アイテムごとの平均価格である。

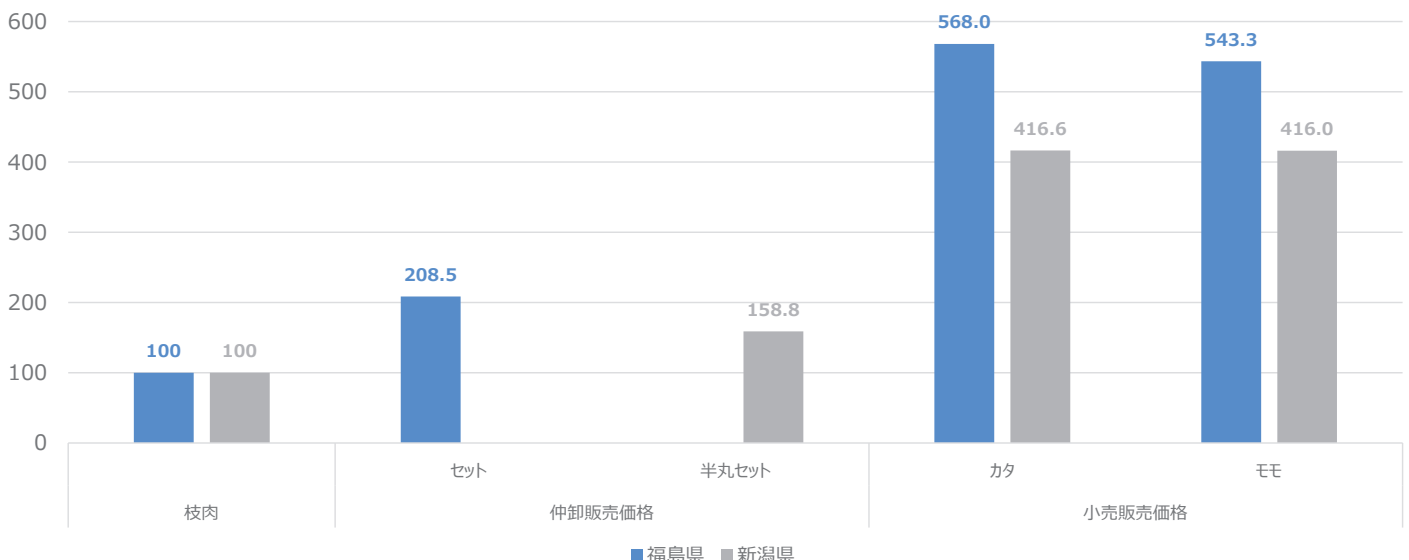
C社における和牛の価格



※枝肉価格を100とした指数。  
 ※枝肉価格は、東京都中央卸売市場における和牛の生体枝肉のデータを用いた。

- 同社は福島県を中心に複数県に店舗を有している量販店である。
- 福島県産和牛は福島県内の店舗を中心に取り扱っている。
- 同社は福島県産和牛を最高価格帯の和牛に位置づけており、特定の仲卸業者を通じて生産地域を指定した和牛を仕入れている。
- 福島県産や新潟県産において、標準小売販売価格は同一部位や同一等級であれば基本的には同一価格が設定されている。

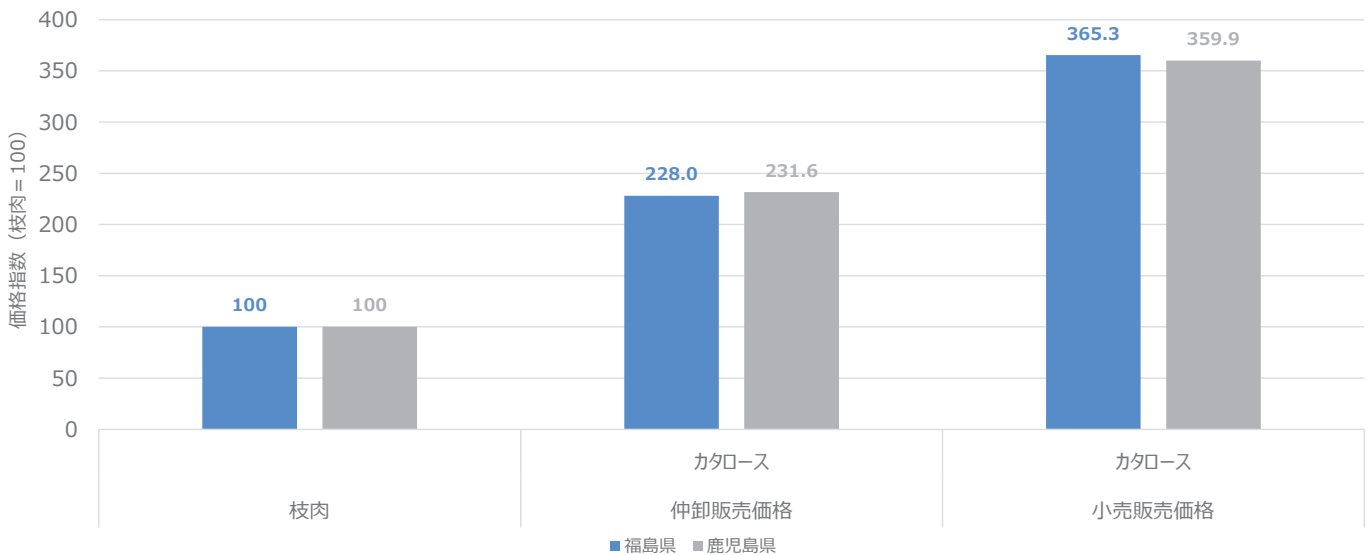
D社における和牛の価格



※枝肉価格を100とした指数。  
 ※枝肉価格は、東京都中央卸売市場における和牛の生体枝肉のデータを用いた。

- 同社は福島県内に店舗を有している量販店である。
- 福島県産和牛は福島県内の一部店舗で取り扱っている。
- 同社は、鹿児島県産和牛のみ産地を指定して仕入れており、福島県産は店舗独自の仕入れや仲卸業者からの提案による仕入れが中心である。また、等級は福島県産の場合はA4等級、鹿児島県産の場合はA3等級とそれぞれ指定している。
- 小売販売価格は、部位ごとに福島県産と鹿児島県産で同一である。

E社における和牛の価格



※枝肉価格を100とした指数。

※枝肉価格は、東京都中央卸売市場における和牛の生体枝肉のデータを用いた。

261

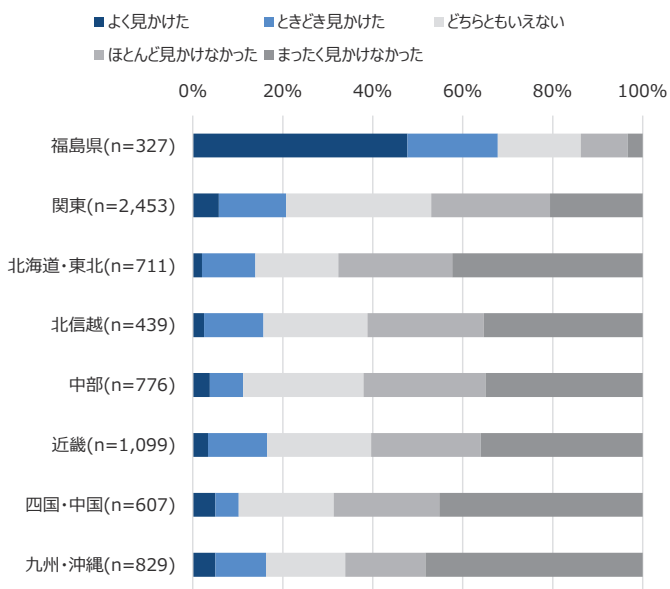
## 5. 福島県産品に対する認識



## 福島県産牛肉を見た経験と購買経験（消費者アンケート）

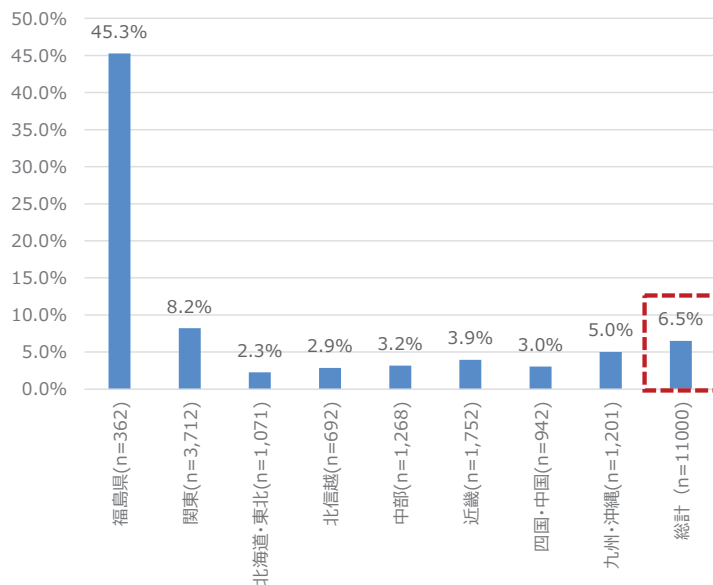
**福島県産牛肉をよく見かけた人の割合は、福島県が高く、他の地域では10%に満たない。福島県産牛肉を買ったことがあると認識している人の割合も福島県が最も高く、全国では6.5%であった。**

### 福島県産牛肉を店頭で見たか



※過去1～2年に、店頭で福島県産牛肉を見た記憶を尋ねた。  
※nは「分からない」を選択した回答者を除いて算出。

### 福島県産牛肉の購買経験率



※購買経験率=1度でも購買したことがある人数/回答者数  
※記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買ってしまえば購買経験なしとなる。

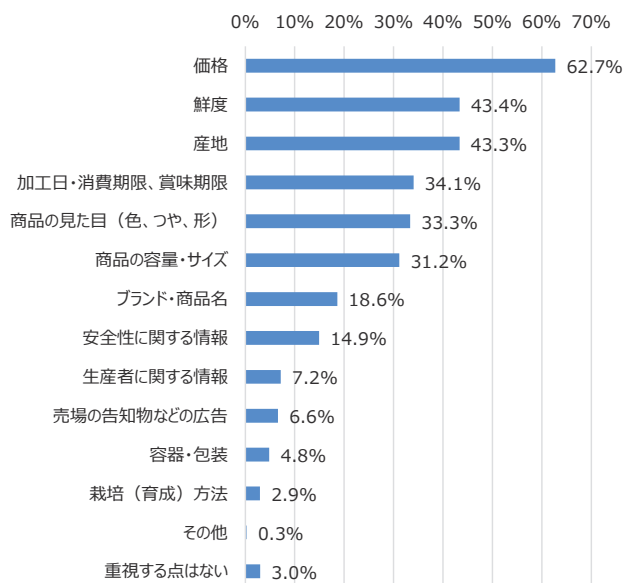
\*本頁及び次頁は、平成27年国勢調査における年代別人口比と合わせるため、ウェイトバック集計をしている。

263

## 牛肉購買時の重視点と、購買者の評価（消費者アンケート）

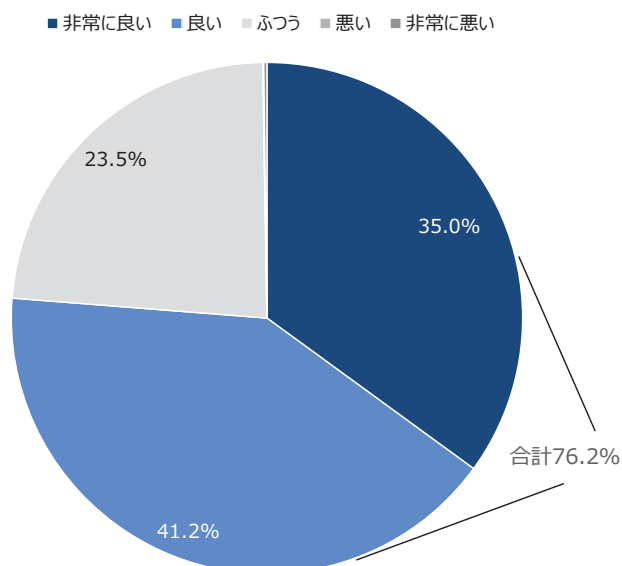
**福島県産に限らず牛肉購買時の重視点を尋ねたところ、「価格」が上位にあがり、次いで「鮮度」と「産地」があがった。福島県産牛肉の購買者に評価を尋ねたところ、「非常に良い」または「良い」と回答した人が76.2%であった。**

### 牛肉購買時の重視点（n=8,859、複数回答）



※牛肉購買時の重視点は、福島県産に限らない質問。  
※月に1回以上牛肉を購買している回答者のみに尋ねた質問。

### 福島県産牛肉購買者の評価（n=653）



※福島県産牛肉を買ったことがある回答者のみに尋ねた質問。

264